

第33期 新潟市社会教育委員会 建議について

1 建議テーマ： 社会教育による次世代育成について

2 趣旨 ※赤文字：前回会議からの修正箇所

少子化や人口減少に加え、若者の流出が進んでいる。
 社会教育の活動者自体も減少し、地域づくりや社会教育活動を行う人材の育成が課題となっている。

こうした社会状況のなか、誰もが生涯を通じて学び育つことができ、学びの成果を生かした地域づくりを通じて、地域社会の構成員としてコミュニティの維持や活性化を担う人材を育てる社会教育の役割は、ますます重要になっている。

新潟市においても、これら次代を担う人材を育成するとともに、地域社会の創生のために社会教育として何をすべきか、「世代を超えた学びの継承と創造」と「いろいろな世代の学びの充実と継続」という観点から調査研究し、建議として提言する。

3 調査研究グループについて

次の3つのテーマごとにグループを編成し、それぞれのテーマについて調査研究をすることで、課題を抽出し、今後の方向性やあるべき姿について建議として提言する。

◆他市町村の取り組み事例グループ

「次世代育成」というテーマで他市町村がどのような取り組みをしているか、他市町村の社会教育委員がどのような活動をしているかも含めて検討し提言する。

◆世代を超えた学びの継承と創造グループ

世代を超えて学びが継承されたり、異なる世代にまたがって新しい学びが生まれたりするにはどのような仕掛けが必要か、世代を超えた学びの在り方や理想像、あるべき姿について検討し提言する。

◆いろいろな世代の学びの充実と継続グループ

社会教育活動をする人の裾野を広げるとともに、既存の団体やグループが継続していく仕組みを作るためには何が必要か、各世代に向けた社会教育の役割を検討し提言する。

4 調査研究活動（視察・懇談）について

(1) 世代を超えた学びの継承と創造

新潟砂丘遊々会との懇談
 〈H30.10.31 実施〉

内容	<ul style="list-style-type: none"> 新潟国際情報大学と佐潟・赤塚地域の団体とが連携し、水と土の芸術祭の市民プロジェクトとして「新潟砂丘遊々会」が発足。 砂丘ウォーキングやシンポジウム、ワークショップなどを企画し実施することで、赤塚地域の魅力を発信している。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングを通して、地域の魅力の再発見できるとともに、地元の方だけでなく、首都圏大学の学生など他地域からの参加者との交流が生まれている。 学生が発案した東屋が地元の方の力で実際に完成するなど、地域の力を感じることでできる取り組みとなっている。 活動をとおして、地域への郷土愛が生まれている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 活動している学生が卒業しても、次の年代の学生に継承されるような活動が継続していく仕組みづくり。 若い世代の参加が少ないので、学生を含めて、今後地域の若い人たちへ活動を広げていくことが必要。



「そらいろ子ども食堂」の視察
 〈H30.12.16 実施〉

内容	<ul style="list-style-type: none"> 県内唯一の学生主体の子ども食堂。 新潟青陵大学と新潟県立大学の学生が主体となって、子どもたちへの食事の提供や、学習支援、季節イベントを実施。 LINE等で係ごとの打合せを随時行っている。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 参加した子どもたちが生き生きとしており、異世代と交流し、楽しく食事ができる居場所となっている。 地域の方にとっても、新たなつながりが形成されている。 ボランティアとして参加し、活動の意味や魅力を実感した後輩が、次の運営スタッフとなって活動が継続している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 調理スタッフが固定化し負担が大きくなっているため、地域の協力が必要と思われるが、学生の自主性を尊重しながら、協力を得ることが大切である。 西区や東区など広域から参加者がおり、今後の事業拡大と継続を考えると、スタッフや会場スペースの確保が課題である。



(2) いろいろな世代の学びの充実

「南区コミュニティ・コーディネーター育成講座」の視察
 〈H30.10.21、H31.1.23 実施〉

内容	<ul style="list-style-type: none"> 白根高校生が、地域の方と交流しながら、「住民間のコミュニケーションを深める」という地域課題に向き合い、解決策を考えることで、未来の自分が地域にどのように関わり、何ができるか考えるきっかけを作る。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 実際に地域の高齢者世代と関わることで交流が生まれるとともに、参加した高校生が地域の課題を実感している。 将来の地域住民である「未来の自分」が向き合うべき課題を意識できるため、高校生が主体性をもって取り組むことができている。 地域課題の解決策として19のアイデアが出され、その中の1つが「高校生が教えるスマホ講座」として実践されている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> より多くの高校生に地域に関わってもらうため、公民館と高校の連携を今後も継続するとともに、他の地域でも実践し、その過程を市民に広く伝えていくことが大切である。



中之口若者有志グループ「やっこて」との懇談
 〈H31.1.30 実施〉

内容	<ul style="list-style-type: none">
効果	<ul style="list-style-type: none"> レポート受領後、追記
課題	<ul style="list-style-type: none">